

2015
3.15



川崎市中原区役所

まちづくり推進部 地域振興課
地域コミュニティ強化担当
TEL : 044-744-3282

「中原区コミュニティフォーラム」

1 コミュニティフォーラムの目的

- 武蔵小杉駅周辺地域において、現在、中原区が検討しているコミュニティに関する取組や地域で行われている活動の事例、今後のコミュニティ形成の方向性などを区民の皆様に御紹介し、関心を持っていただくとともに、地域活動への参加のきっかけ作りを目的に、平成27年3月15日、中原区役所5階にてコミュニティフォーラムを開催しました。

2 コミュニティフォーラムの開催概要

| | |
|-------|--|
| プログラム | 【第1部】 (1)中原区役所におけるコミュニティ形成に向けた取組 (2)基調講演「武蔵小杉で考える都市の未来」 (3)こどもたちのダンス～キッズダンスチーム・キャンディキッズ～ 【第2部】 (4)活動事例紹介（町内会・自治会、商店街、NPO法人エリマネ、企業） (5)こどもたちのダンス～武蔵小杉ダンスグループ・KSG48～ (6)パネルディスカッション |
| 概要 | ➤ 中原区によるコミュニティに関する取組の紹介や、学識者による武蔵小杉駅周辺地域の現状に関する基調講演、地域の主体・関係者による活動紹介 ➤ 本地域の子どもたちによるダンス ➤ 町内会・自治会関係者、NPO法人エリマネ関係者、本事業で開催したワークショップ参加者、学識者による地域に対する想いや、これからの取組などについてのパネルディスカッション |
| 参加者数 | 第1部 約130人、第2部 約60人 |

3 基調講演「武蔵小杉で考える都市の未来」

野口都市研究所所長 野口和雄氏

- 武蔵小杉の強みは、人口減少時代に入った日本において、若い人口が増加し、成長を続けている点にあります。従来の文化と新しい文化が混在し、さまざまな可能性を秘めています。一方、まちの成熟には時間がかかるため、境界部分にストレスがかかりやすいこと、また、自然災害を体験していない都市であることから、これらをいかに克服していくかが課題となります。
- 2040年の中原区を考えてみると、人口が流動化するのか、居住者が定住することで高齢化問題が起きるのか、未だ予測できないところがありますが、今後、地域の担い手として、市民活動団体、NPO、企業などが、コミュニティ事業やソーシャルビジネスを展開していくことが必要となります。そのための様々な仕組み、制度をつくり、地域の主体が連携していくことによって、持続可能な地域コミュニティが形成されていくと思います。



★ こどもたちのダンス ～キッズダンスチーム・キャンディキッズ～



4 活動事例紹介

1) 町内会・自治会の取組 新丸子東2・3丁目親和会会長 尾木 孫三郎 氏

丸子連合町会として、9町会が一丸となり、運動会、盆踊り、日枝神社の行事などに取り組んでいます。また、多摩川が綺麗になったことを受けて、昨年「丸子の渡し祭り」を復活しました。「高層マンションから下を見たら、何かやっている」と興味をもってもらいたいと思つたことがきっかけです。新たな居住者の方々には、地域の文化的・歴史的資源を知ってもらいたいです。今後も皆様のご協力のもと、継続したいと思います。



2) 商店街の取組 協同組合武蔵小杉商店街理事長 松本 等氏

58年前、当時の商店街役員で二ヶ領用水沿いに桜の木約30本を植えました。近年、木が弱ってきたため、東急の「みど＊リンク」アクションの補助をいただき、藤を植樹することになりました。藤を今のうちに植えておけば、桜と藤が連続して咲くことで、武蔵小杉駅周辺の新たな魅力やにぎわいになると思います。今後はさくら祭りと同じように藤祭りができることを楽しみにしております。



3) NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメントの取組 NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメント 塚本 りり 氏

武蔵小杉周辺地域の町内会・自治会、商店街、市民活動団体の代表で設立されたNPO法人です。8つの高層マンションのネットワークの強化や、エリア全体の地域価値の向上を目指しています。月1回の清掃をはじめ、パパママパークこすぎ、コスギフェスタ、仮装コンテスト、こすぎの大学、こすぎ防災フェスなどを、理事とマンション居住者の有志ボランティアで開催していますので、皆さんもぜひご参加ください。



4) 企業の取組 日本電気株式会社総務部玉川総務部マネージャー 濱口 優治 氏

日本電気株式会社玉川事業場は、2016年に80周年を迎えます。15,000名の従業員が、下沼部に勤務し、ICTを活用した社会インフラ事業を展開しています。また「子どもの環境授業」「食物循環活動（コンポストで生ごみの堆肥化）」「NEC玉川吹奏楽団による演奏活動」「募金活動による被災地支援」、そして「NECレッドロケッツ（バレーボールチーム）」等、社会・地域貢献活動を積極的に行っております。



★ こどもたちのダンス ～武蔵小杉ダンスグループ・KSG48～



5 パネルディスカッション

中原区が目指すコミュニティ形成に向けて、「子どもたち」、「人づくり」などの視点からディスカッションが行われました。



コーディネーター
谷本 有美子氏
(神奈川県自治研究
センター研究員)

パネルディスカッションの主な内容

地域で親が楽しむ姿を子どもに見せたい

- 【コーディネーター】皆様は、どのような想いを持って活動に関わっているのか、お話しをお願いいたします。
- 【パネラー】私は地域に立地する企業に勤める一方で、NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメント(以下、エリマネ)の主催事業「こすぎの大学」の企画・運営も行っている、武蔵小杉の居住者の一人です。ここに引っ越してきてから、長年地域との関わりが少ない生活をしていました。数年前にエリマネ主催の読書会に参加することで知り合いができ、今は次の活動が待ち遠しくなっています。最近では娘も一緒に活動に来てくれるようになりました。親がまちで楽しむ姿を見せたいれば、きっと子どもたちもこのまちに住み続けたいと思ってくれると考えています。
- 【パネラー】参加したきっかけは本当に偶然でした。自分も会社と自宅の往復だけで、近所付き合いがほとんどない生活でした。実験的なことも許されるエリマネという組織は珍しく、活動していて面白いと思います。さらにリーダーが「これがやりたいよ」と声を上げると、時間をつくって取り組む人たちもいます。皆の人的魅力にも引き込まれて一緒にやっています。「コスギフェスタ」にしても「こすぎの大学」にしても気持ちが前向きになれて、とても楽しく活動しています。
- 【パネラー】エリマネの役員の方々とはできる限り交流するように心掛けています。エリマネは、若く、頭が柔らかく、いろいろ発想すると行動も早く、一つのイベントがあつという間にできていきます。そういう動きを見ていると非常にうらやましく思います。自分の町内会・自治会のことを考えると、役員も非常に高齢化が進んでいることから、若い人材の参加が一番の課題です。

「子どもたち」が世代をつなぐ

- 【コーディネーター】コミュニティ形成に向けては、「子どもたち」がひとつのキーワードになるのではないのでしょうか。運動会や盆踊りに子どもたちが関わることにより、その子どもたちの親が町内会・自治会活動に関心を持ち参加するようになる可能性があります。2040年、先ほど踊っていた子どもたちは、引き続きこの地域に住み続けているのか、あるいは転出してしまうのか、このまち

のコミュニティの展開が大きな鍵を握っているのではないのでしょうか。

【パネラー】子ども会のような接点がない中、家族ぐるみで活動するような機会があればとてもうれしいです。私が「今日は武蔵小杉駅周辺地域の人と、こういう話をしてきた」と楽しそうな顔を見ると、娘も共感して喜んでくれます。将来というより、現在の武蔵小杉に関する地域の話を良くするようになりました。

【パネラー】親子で運動会に参加して車座になって昼食を食べたりすることで、「次は仲間を連れてくるよ」というようなきっかけづくりを、地道に広げていけたら良いと思っています。また、エリマネの活動を眺めているだけでなく、私たちが飛び込んで一緒に楽しむほうが早いと感じています。今後、エリマネと話が合うように、町内会・自治会の若い役員を育てる努力をしていきたいです。

【コーディネーター】エリマネの活動の中では、文化の違いやジェネレーションギャップもあったと思いますが、乗り越えられたポイントはなんのでしょうか。

【パネラー】地域から、マンションは外から入りにくい印象があるとご指摘を受けたので、こちらからご挨拶に向き、コミュニケーションをとるようにしました。世代や文化も違うので、地域の居住者の方に協力してもらいながら徐々に進めているところです。



向かって左から

- 【パネラー】
 - ・尾木 孫三郎 氏 (新丸子東2・3丁目親和会会長)
 - ・塚本 りり 氏 (NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメント専務理事)
 - ・岡本 克彦 氏 (「こすぎワイワイトーク2014」参加者代表)
- 【コメンテーター】
 - ・小島 聡 氏 (法政大学人間環境学部教授)

5 パネルディスカッション（続き）

人づくりの場「こすぎの大学」「コスギフェスタ」

- 【コメンテーター】この地域では、多摩川の「丸子の渡し」や、二ヶ領用水と桜の保全活動が行われていますが、どちらも素晴らしい環境資源、文化資源です。この武蔵小杉の歴史を反映した資源は、武蔵小杉のマンション群の境界エリアにあります。これを守ってきたのは従来からあったコミュニティですが、それが徐々に困難になってきています。今後、次の世代と一緒に守り育てていく関係をどう作るか、今ある問題をみんなで解決するという成功体験を共有することがポイントです。「こすぎの大学」や「コスギフェスタ」の素晴らしい点は、みんなが動き出す道筋を作っていることです。子どもと高齢者をつなぐ30～40代が、このまちの担い手となるための「人づくりの場」として素晴らしいと思います。
- 【パネラー】武蔵小杉は素晴らしい人が住んでいて「こんな近くに、こんなことができる人がいる」と、今まで驚きの連続でした。これからも中原区のみなさんに発信し続けて、「ここまでならできるんだけど・・・」「こんなことを一緒にやろうよ」という人が出てくるように頑張りたいと思っています。
- 【パネラー】先輩方からいろいろ学びたいと思っているので、諸先輩方も「こすぎの大学」に来ていただけると嬉しいです。また、このような活動を通じ、行政に対する垣根が低くなり、区役所にも行きやすくなりました。組織というより人を知れば、きっと明日から楽しい生活があるのではないかと考えています。
- 【パネラー】今後もできるだけ活動に参加して、エリマネと共同事業ができれば良いと思います。
- 【コーディネーター】地域社会の中に関わって、人と知り合う、つながる、学ぶということが、私たちの一番大きな財産になっていくものと思います。
- 【コメンテーター】成熟した都市を形成していく際には、政策を担う行政も居住者もみんなと一緒にまちについて考える必要があると思います。みんなで検討を重ねていくことで「私のまちから、私たちのまちへ」になり、それがコミュニティづくりとなると思います。コミュニティづくりには、課題がいくつもある一方で、可能性もたくさんあります。その可能性のある課題に、地域の主体・関係者が一体となって取り組めば、コミュニティはさらに良くなっていくと思います。

人と知り合う、つながる、学ぶことが財産に

- 【パネラー】地域活動をする理由は自分のためであり、武蔵小杉で楽しく過ごしたいと思うからです。これからこのまちで過ごしていく中で、結果として誰かのためになれば良いと思いながら、緩やかに活動していきたい



6 参加者の感想（アンケートより抜粋）

- これからの武蔵小杉駅周辺地域について考えるきっかけになった。
- もっと実際に活動されている方々の報告を聞きたかった。
- 武蔵小杉の魅力を広め、子どもたちに郷土を愛する心を育んでもらうため、従来からの居住者と新たな居住者がいろいろな取組をしていることを知ることができて勉強になりました。
- コミュニティという言葉が曖昧な意味を持つので、総論として問題意識は理解できましたが、具体的なイメージをつかめませんでした。実際に活動を見てみると、理解が深まるように思いました。
- NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメントの活動に、特に感心しました。
- 大人向けの講演と子どものイベントを一緒にしたことにより落ち着いて聞けなかった。
- 子どもの存在が感じられ、住民の声を聞くことができて良かったです。ただ、参加者の年齢層や数が集まらなかったことが気になりました。
- 参加者に、今回のフォーラムの主旨を理解して最後まで聞いてほしかったので、プログラムの工夫をお願いいたします。